

2022年10月19日
愛知用水土地改良区創立70周年記念式典

愛知用水の芽生え

－ 先人たちの愛知用水運動 －

公益財団法人 愛知・豊川用水振興協会研究員

遠（つじ） 志保



1952（昭和27）年5月8日
愛知用水土地改良区設立

1 浪曲と映画と小説の愛知用水運動

浪曲 梅ヶ枝鶯「都築弥厚の苦心談」

映画 アメリカの土地改良映画、日本の人気映画

小説 岸哲夫『明治川』（「東海毎日新聞」連載）

2 山崎延吉と愛知用水



高松宮の愛知用水計画地視察

知多農村同志会と愛知用水

1873（明治6）年石川県生まれ、1901（明治34）年愛知県立農林学校（現安城農林高）初代校長に就任。農聖と呼ばれた教育者で農政家。安城を拠点に全国的に活躍し、安城一帯が「日本デンマーク」と呼ばれる農業先進地になったのは山崎によるところが大きい。



1952（昭和27）年2月1日

1 浪曲と映画と小説の愛知用水運動

近代国家を歩み始めた日本は、国民国家の理念を上からのおしきせではなく、庶民の側にあった浪曲によってもたらしていった。

浪曲によって語られた義理人情の涙の物語とその声は、大きな力を持っていた。

1948（昭和23）年8月7日 市町村内の学区ごとに説明会を開催し、「浪曲師三門博を呼んで『都築弥厚の苦心談』で人を集める」ことを決議。

翌日、浜島辰雄が三門博の興業権を持つ安城南明治の山口老人に交渉「三門博はギャラが高いし、毎日連続ということはむりだ。そのかわりに梅ヶ枝鶯というのがあるから、それがよい」

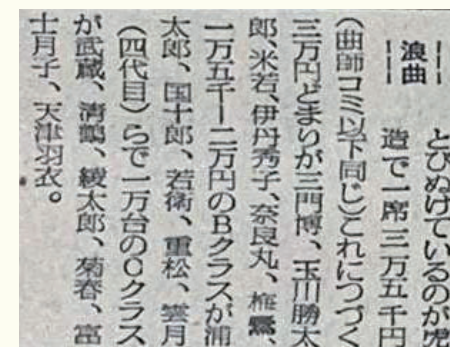
「久野庄太郎が交渉し、山口老と話し、梅ヶ枝鶯と決定」

広沢虎造の弟子・梅ヶ枝鶯

1日の出演料10,000円（当時公務員初任給2ヶ月分以上）



1976（昭和51）年7月
明治用水土地改良区主催（安城市共催）
三門 博 レコード製作発表会
浪曲「開けゆく安城ヶ原
偉人弥厚と日本デンマーク」



ラジオ・スターの出演料番付
1952（昭和27）年4月25日東海毎日新聞

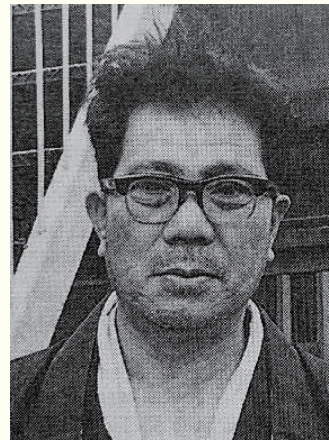
横1.6m×縦3.6m

浪曲 梅ヶ枝鶯「都築弥厚の苦心談」

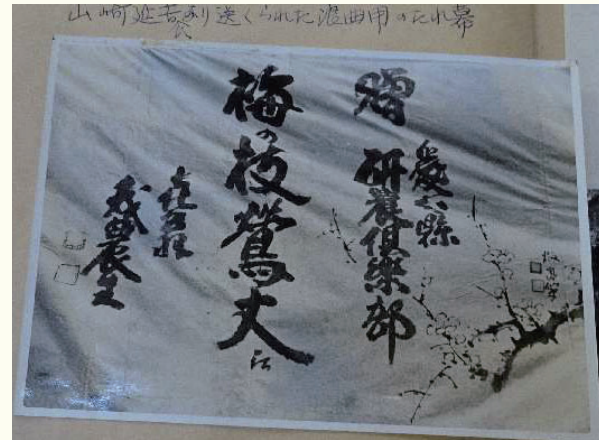
明治用水開削の苦勞の浪花節で人を集め涙を誘い、そのあとに愛知用水の計画を話すという説明会のスタイルができる。→70回ほど開催

1948（昭和23）年11月、久野は自宅に研農倶楽部の人びとを集め、愛知用水の説明会をおこなう。山崎延吉を講師とし、浜島が愛知用水計画を説明、梅ヶ枝鶯が浪曲「都築弥厚の苦心談」を口演した。研農倶楽部の人びとは浪曲に感激し「久野の心中を思い感極まったの男泣きを始めた。皆泣いた。」

1949（昭和24）年1月13日「久野来り。梅の枝鶯丈へのテーブル掛に執筆した。久野の依頼で梅の枝鶯のテーブル掛は二枚書いた」。



梅ヶ枝鶯と曲幕



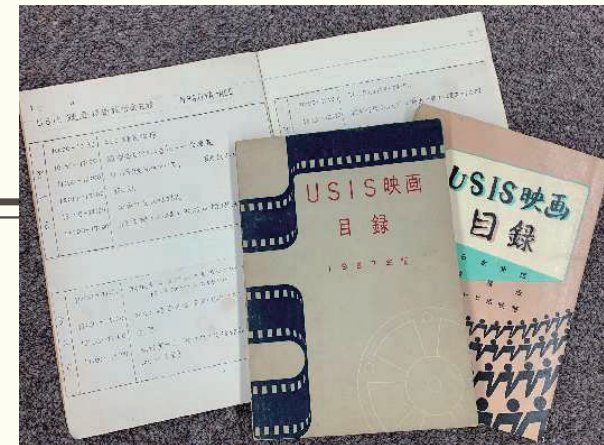
1 浪曲と映画と小説の愛知用水運動

映画 アメリカの土地改良映画、日本の人気映画

1955（昭和30）年秋、それまで小学校の先生が映画を上映してくれていたが、その後、愛知用水土地改良区職員が農林省木曾川事務所に16mm映写機の上映方法を学びに行く。

アメリカ文化センター（名古屋市中区大津町）に上映映画を借りる。「T.V.A.の町」「フーバーダム」「農業ファーム」「アメリカ万華鏡」など、多くは米国の土地改良映画。貸出期間が短く、数日借りては返しを繰り返した。農林省のものは、スプリンクラー（人工雨）やモーターエンジンの実演などのフィルムを使った。

1952（昭和27）年5月13日 夜、知多郡野間町農村同志会主催で野間町劇場で「箱根風雲録」（河原崎長十郎、山田五十鈴ら）を映写し1,000人近くが集まる。幕間に愛知用水土地改良区理事長・伊藤佐ほか2名で愛知用水の説明会をおこなう。



映写機講習の受講ノートやアメリカ文化センター所蔵作品リスト



1952（昭和27）年6月1日
愛知用水新聞 No. 5

1946年10月 藤谷崇文館
1948年1月 再版 (50円)

1 浪曲と映画と小説の愛知用水運動

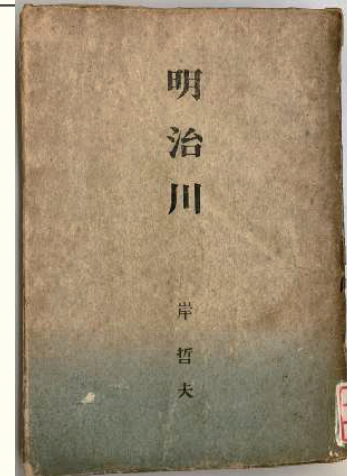
小説 岸哲夫『明治川』（「東海毎日新聞」連載）

明治用水の都築弥厚の事績を小説化した『明治川』を数千部購入、関係方面へ贈呈
(購入資金は名古屋木材株式会社社長加藤周太郎の喜捨)

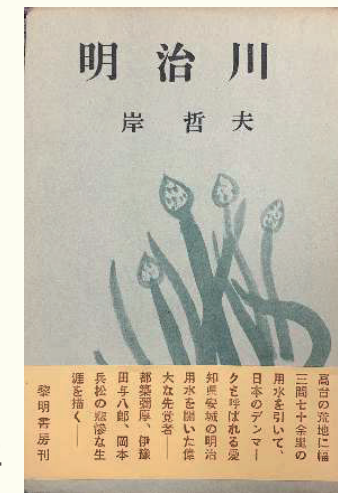
岸哲夫は構想を改め、連載小説「明治川」として東海毎日新聞に掲載

あとがき「(小説連載の間に)熱心な読者から手紙やハガキをたくさんもらった」、
「愛知用水推進者の一人である久野庄太郎氏らの苦心談が、私の心を打った」

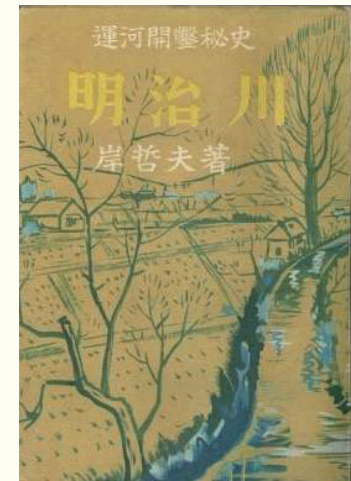
明治用水土地改良区設立 (1952年4月) 『明治用水』 (1953年)



1950 (昭和25) 年8月8日~11月27日 (111回)
連載小説「明治川」 (東海毎日新聞)



1952年11月黎明書房



1947（昭和22）年12月29日
東海毎日新聞

2 山崎延吉と愛知用水

山崎延吉日記（安城市歴史博物館所蔵）

1898（明治31）～1927（昭和2）年/1949（昭和24）～1954（昭和29）年
東海毎日新聞社長 1946（昭和21）年創刊～1952（昭和27）年廃刊

1948（昭和23）年5月 久野庄太郎から初めて愛知用水の構想を聞く。

「私は多年愛知県の農業につくしてきたが用水を作って農民を救うことは考えて見なかった」「私も余生を傾けて援助する」と激励

山崎は自身の人望と人脈を駆使し、久野の描いた愛知用水の構想を、戦後日本の国土総合開発のモデルへと向かわせた。

1948（昭和23）年8月、久野を含む知多農村同志会、知多郡の農民を多数連れて愛知用水取水口に予定した木曾川の八百津を見学。山崎は現地で講演し「農民自身が団結して用水を作れ」と絶叫。

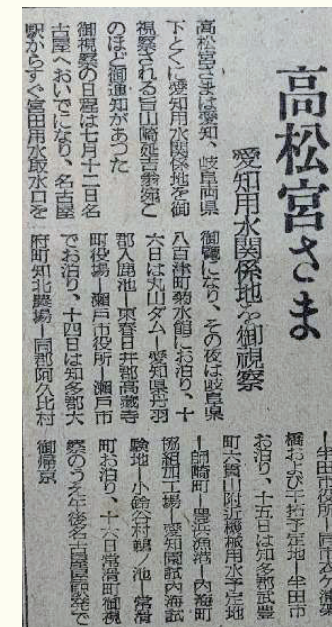
高松宮の愛知用水計画地視察 1950（昭和25）年7月12日～16日（4泊5日）
地元の人びと、自治体、国を皇室の権威によって説得する大きな狙い

1949（昭和24）年12月4日 山崎は高松宮に愛知用水の視察を願う手紙を書く。

1950（昭和25）年4月2日「高松宮殿下の愛知用水視察は、6月以後との通知ありたり」



1950（昭和25）年7月2日
東海毎日新聞



1950（昭和25）年6月12日「久野・石川来訪。殿下の御日程を伝えて、準備をなさしむ」

7月5日「寝込を久野表はれ、六時半起き、殿下御案内の打合せをなし、飯後退去」

7月9日 瀬戸に高松宮が泊まれる宿がないと報告あり、瀬戸市と協議するよう話す。

7月11日「明日より殿下に随行する用意をなす」。瀬戸は陶芸家・加藤作助邸宿泊が決まったことの報告を受ける。

7月14日「東海毎日新聞」高松宮の発言掲載

「小利害をこえた利益をもたらす計画だから誰でも喜ぶべきはずのものだろう」「大きな食糧増産になると思う」「狭くて水の多い日本で生活の基となる水のない都会がいまの中部地方にあるというのがオカシイ、これでは文化都市とはいえない」「いまの日本にとってどれだけプラスになるか判らぬ」「工事は大きな意義がある」「早く着工し完成を期すべきだ」

愛知用水現地視察／瀬戸で陶芸家・加藤作助邸泊、作品を献上、常滑で伊奈製陶（現INAX）伊奈長三郎邸晚餐会、長久手古戦場や徳川美術館の見学など、飽きない視察に努める。

7月16日、15時50分の特急で高松宮帰京。山崎は「四時汽車にて帰宅、疲れて臥床」



1950（昭和25）年7月13日・14日 東海毎日新聞



2 山崎延吉と愛知用水

知多農村同志会と愛知用水

山崎の下に集まった知多農村同志会は、山崎の賛同する愛知用水実現を積極的に支援した。

1948（昭和23）年8月7日、武豊町の堀田稻荷神社で開催された知多農村同志会で、久野が愛知用水の構想を同志会会員に説明し促進を要請すると、全員一致でその実現のために運動することが決定。

浜島辰雄から愛知用水土地改良区に託された写真に「七十七 丑年 我農生」と記され、山崎の喜寿記念写真とわかる。丑年=1949（昭和24）年

1949（昭和24）年3月7日「大府町の二名に迎えられ八時半にて熱田より武豊に■なる同志会同盟会催の祝賀会に出つ。集まりしもの廿余名喜寿を祝ふ愛情を感謝す。二名に送られ土産に米を貰つて六時帰宅。」「久野は同志会を、中川町長は同盟会を代表す。熱田駅にて霽降て、午后武豊にて雪を見る。」



山崎喜寿記念写真は、なぜ祈願祭記念写真として使われたか。

『愛知用水史』執筆段階で、知多農村同志会の祈願祭の記念写真として使うことを決めている。

1948（昭和23）年8月7日 武豊町の堀田稲荷神社で久野が愛知用水の構想を話し、知多農村同志会の全員で一致団結した時と、1949（昭和24）年3月7日 山崎の喜寿祝賀会に集まったメンバーとはほぼ同じだったため、この写真を使うことを決めたのだろう。



1954（昭和29）年5月27日久野来訪。愛知用水が「愈々本格的になれるを喜合った」。

5月29日 日本政府は愛知用水建設のため世界銀行に対し外貨導入を申請。

6月13日 愛知用水土地改良区理事長・伊藤佐が東京より来訪「愛知用水について語り先づ軌道に上れるを喜合った」。

6月15日 久野来訪「愛知用（水）の話をなし、喜合った」。

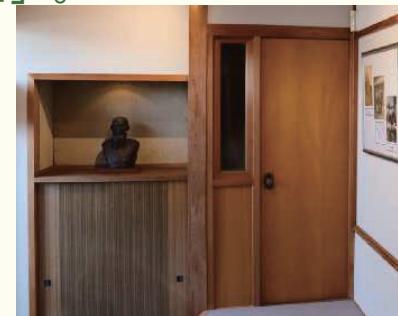
6月19日 浜島来訪「蛍光燈を贈られ感謝」。

山崎の日記は6月21日で終わる。

久野から愛知用水の構想を聞き、「余生を傾けて援助する」と語った山崎は、その言葉通り愛知用水の実現に向けて亡くなる間際まで尽力し続け、7月13日息を引き取った。



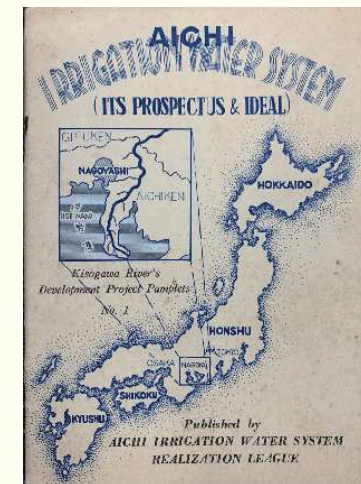
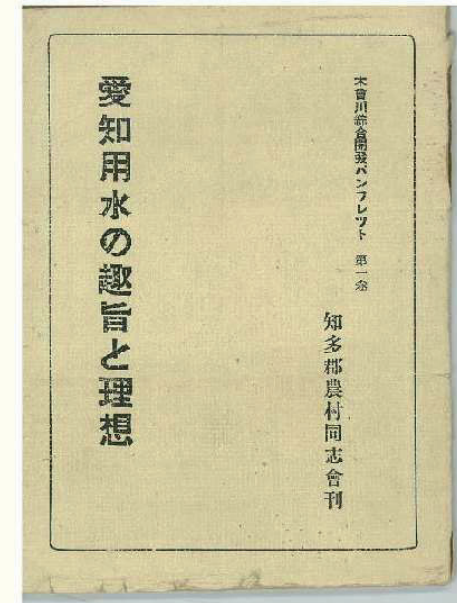
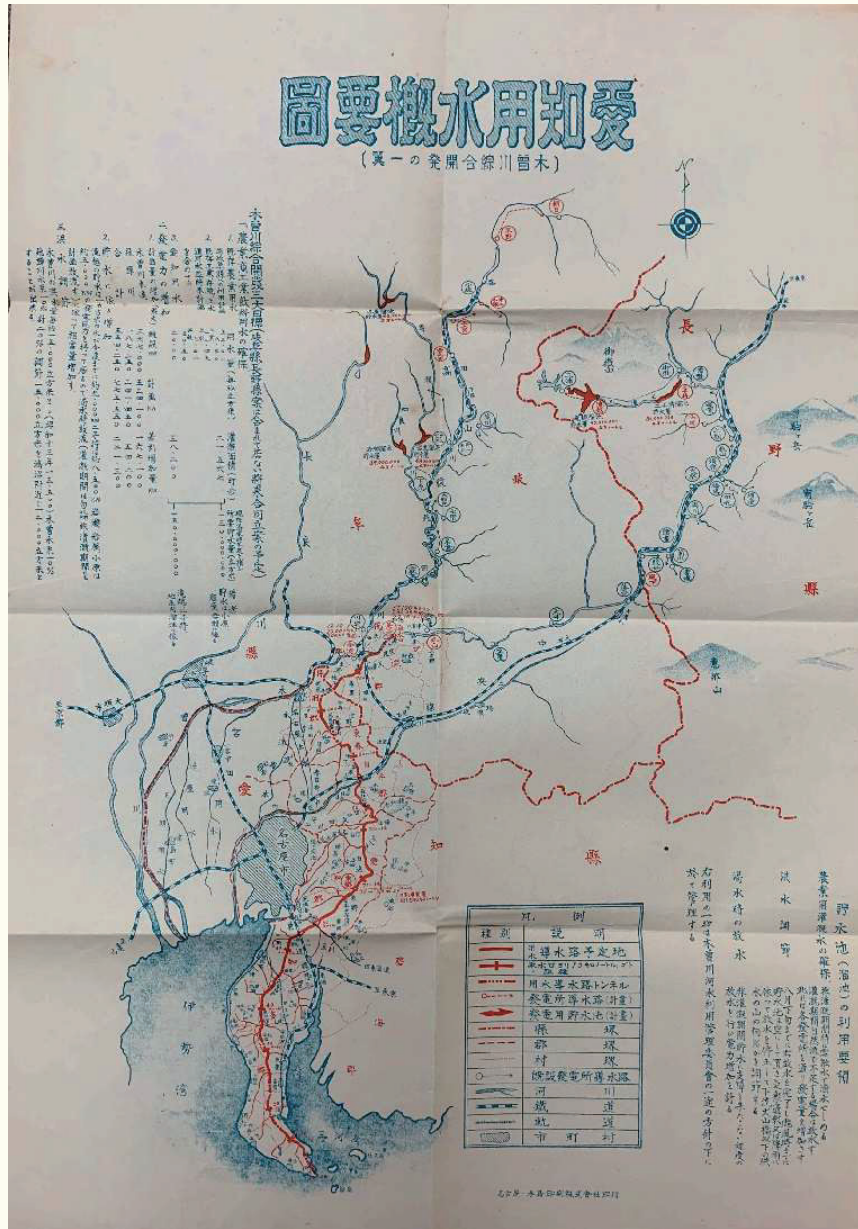
山本孝平氏宅にて



2022年6月開館

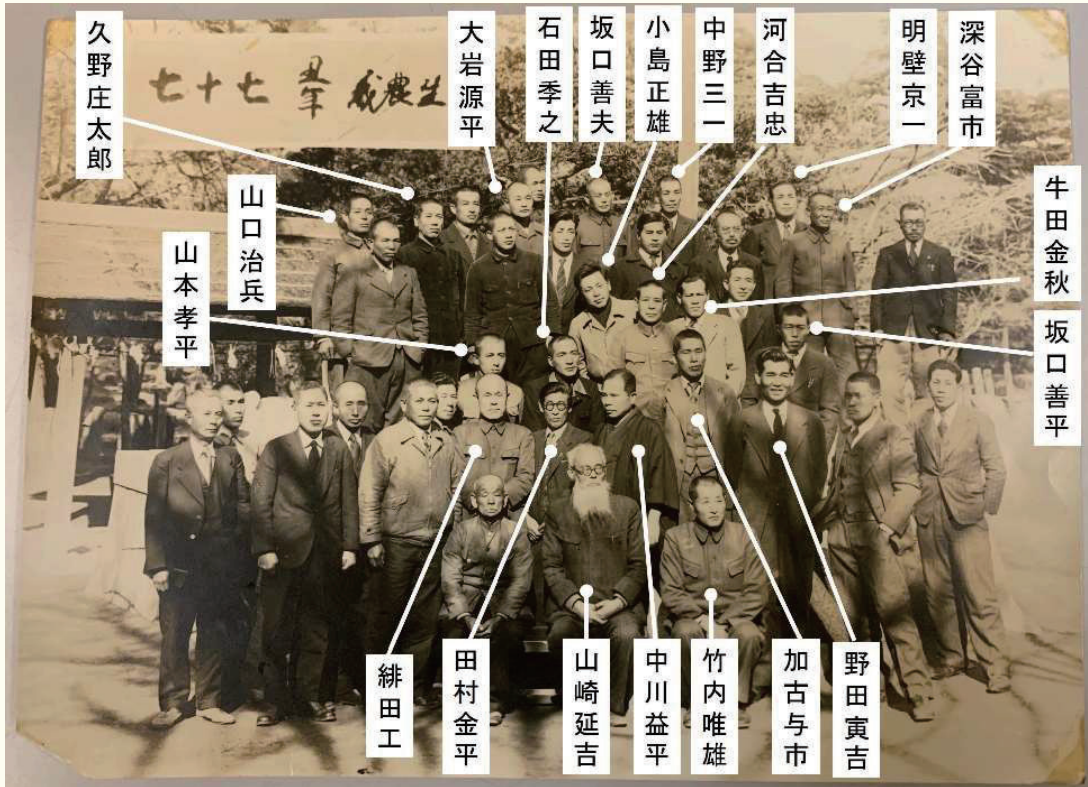
『愛知用水の趣旨と理想』と 愛知用水概要図

- 1932 (昭和7) 年
名古屋にて手島印刷所創業
- 1949 (昭和24) 年12月
『愛知用水の趣旨と理想』刊行
- 1950 (昭和25) 年1月
手島印刷株式会社設立。
「愛知用水概要図」作成



1950 (昭和25) 年5月5日
英語版を世界銀行に提出

愛知用水運動を支えた知多農村同士の会



愛知用水水利観音 柴山清風作



高さ21cm
底部「願主久野光水
台座：直径6.5cm
「愛知用水水利観音

悲願は観音像と共に

愛知用水の推進者・久野さん



1961 (昭和36) 年
5月26日
毎日新聞

辛丑 (1961年) 晴風謹作
奉祈用水安全 諸人快樂